

三

女  
子  
新  
命  
卷  
三

三





つらさこそ一かゝる津波さしひの甲はゆひ也の  
池を四あふふ小竹城きまうく文成のひさか  
やうし思持工丈もくは西まのりすんといひての  
しく心あさうふり候たうしく文成は縁をわ  
んとよたさやうとあつさうりあめ白揚く人のま  
まへまふふしをれとま同きまうひのふまふあ  
るさそふふねといふゆてあひせとてさうさ  
まら人のあうて或月の假はまらあひてさうさ  
いさうをりきんのりんは縁へまらさうひのさあひ  
起前なら湯土地人の大奉あうとを縁しあのみさう  
なら願もりくさんとの願さうさうく一歳よかともさひ

がらかりせしひ雲あのかくらんをうりやく池はさ  
むりともさうさうも或屋のさうりさうさうさうさ  
あのみゆを源数津云舟来は君物ともうふ藤原の  
ゆひの流さうさうれさうひの屋まともはう一房も  
りれさうりさうはら流れ候はうさうさうたうりさ  
屋のさうりさうを義徳を平慶し別作さうさうひさ  
さうりさうさう自備のさうりさうをて義徳を平  
さうの屋のさうりさうともさうはとさうりさうさ  
あさうさうさうさうさう一輪のさうりさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
あさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

いりよのふりしよとくは自ら取のものとせ若くは頼む  
るをよら武備若くしてありせんや若くそのまよあり  
あつりくまきくゆまとい今時知ほまひのふくた  
きこのまよ一人てちさくはれなりかきくはれまよ  
とけくまよていひゆまかりれりししゆまをいし  
くひるうまふのま武備若くはれり武備の武備の  
まよまよとくまよ若くまよこのまよにまよひに  
まよのまよまよりかまよゆまひせ又武備一人のまよ  
まよまよるりまよ武備若くはれり又武備若くはれり  
まよ一人のまよ一人の武備若くはれりまよまよまよ  
まよまよまよまよ一人の武備若くはれりまよまよ

ひし今ふりしよとくは自ら取のものとせ若くは頼む  
るをよら武備若くしてありせんや若くそのまよあり  
あつりくまきくゆまとい今時知ほまひのふくた  
きこのまよ一人てちさくはれなりかきくはれまよ  
とけくまよていひゆまかりれりししゆまをいし  
くひるうまふのま武備若くはれり武備の武備の  
まよまよとくまよ若くまよこのまよにまよひに  
まよのまよまよりかまよゆまひせ又武備一人のまよ  
まよまよるりまよ武備若くはれり又武備若くはれり  
まよ一人のまよ一人の武備若くはれりまよまよまよ  
まよまよまよまよ一人の武備若くはれりまよまよ



有りしに浮れし事やふそくもの佳たきやうに  
昔とよきをまのまをうまをこころをぬきま  
下しと衆用なうとされしとち成るる下

僧光曰と明よりしと悟じたる衆玉對ある人の  
おんよりしと昔同しう人多りと執像へし佛  
乃湯洗ふとてしきふたと世成をたげしひ  
かきうくや 師乃曰されしんぬや 又しかり  
湯洗ふはもの湯洗しとてまを平人のり也 此も  
万人とよしみあまのひとと湯洗一輪成地  
くれり乃衆ゆれしとまの湯洗しゆをれ洗  
まよ 凡さるり聖人より下し佛のしれつさ  
とまの乃備あるかすつくすしとほしとて  
上つことなるりやとれて大衆より下はく  
とひく 此もこととてしき理をなれしと  
乃洗洗しとてしき理をなれしとてしき  
たうの佛也とてしき理をなれしとてし  
衆玉對ある人を一文木とてしき理をな  
ゆしと昔同のむとてしき理をなれしと  
あつと昔同のむとてしき理をなれしと  
て衆ゆり乃しとてしき理をなれしと  
ひつと文とてしき理をなれしとてし  
めやいり也とてしき理をなれしと

とまの乃備あるかすつくすしとほしとて  
上つことなるりやとれて大衆より下はく  
とひく 此もこととてしき理をなれしと  
乃洗洗しとてしき理をなれしとてしき  
たうの佛也とてしき理をなれしとてし  
衆玉對ある人を一文木とてしき理をな  
ゆしと昔同のむとてしき理をなれしと  
あつと昔同のむとてしき理をなれしと  
て衆ゆり乃しとてしき理をなれしと  
ひつと文とてしき理をなれしとてし  
めやいり也とてしき理をなれしと

ちかたしやうわんしんをそとひすけとよほひし  
 門のたむしよとよひのひのほめと明かしてまじ  
 のちれとあはひてとまのほろこひとくち  
 仲光曰株と守りとのこまよふたにさうこ  
 師のまらたのまもまふまふとよひ  
 甲は財物おろふわと海とさおひのく株とゆま  
 と富言のたよせじりし山の内おまやうて  
 石と石より光ひつとくわととりの山つは  
 さりれ本つとよまをよぼててそり  
 こまとんとくまよふやうまもてそ  
 こまよまのこまを光とりの

光とせつてふりかれより  
 のふりおゆまてまの  
 陸田ゆたきまをひ  
 びわらゆりつとよ  
 命のまにつとよ  
 もは合わすて





わが風俗と云ふは、ふてりて、わがこゝのよきと云ふは、  
しを、是れ、又、司、或、弟、等、の、排、と、いふ、も、り、さ、ん、じ、に、  
なり、と、いふ、を、さ、し、や

佐光同日、子同、を、死、の、せ、を、れ、し、お、月、く、は、ひ、  
子、の、い、い、た、人、お、か、り、も、た、こ、こ、を、あ、や、う、こ、の、い、  
い、

時の、回、れ、か、こ、の、ひ、く、し、こ、と、い、  
ひ、ぞ、い、ひ、い、じ、さ、せ、か、人、あ、ら、と、い、て、さ、や、う、い、あ、や、り、  
ま、う、そ、う、い、と、い、を、せ、り、れ、も、さ、よ、と、い、て、お、の、を、け、  
と、い、て、だ、ま、し、死、の、の、を、れ、と、い、て、い、ら、い、や、ら、  
い、い、お、か、り、を、い、う、こ、の、せ、と、い、う、し、こ、の、ま、  
同、を、余、知、と、い、は、大、地、の、と、い、は、れ、と、い、て、い、て、い、

よ、お、い、と、い、し、色、の、を、同、お、か、と、い、く、大、の、よ、く、い、れ、も、か、  
か、く、せ、り、と、い、ひ、い、な、ら、う、も、の、を、あ、れ、り、い、ん、と、い、て、  
わ、い、く、う、う、人、と、い、く、お、ま、の、り、い、ん、と、い、て、よ、も、あ、を、  
な、く、大、と、い、て、余、知、を、ま、た、せ、り、ひ、と、さ、り、い、い、と、い、  
あ、も、い、い、と、い、て、よ、く、い、お、の、ス、

侍、も、日、  
學、問、の、名、も、い、ふ、と、い、て、お、う、と、い、て、い、ひ、の、を、な、く、い、  
お、ま、い、お、  
時、の、日、を、其、の、り、い、ん、お、か、り、と、い、て、お、い、  
お、か、り、と、い、て、い、お、の、い、さ、さ、や、い、と、い、て、い、ひ、と、い、  
の、ま、を、い、い、と、い、お、い、お、お、い、は、い、と、い、て、お、い、  
お、い、お、い、の、あ、い、さ、も、お、い、お、い、と、い、て、お、い、  
お、い、お、い、と、い、て、お、い、と、い、て、お、い、と、い、て、お、い、



とつた利根にて遊ばせむびかなう人はなまひを御  
仲光曰うまのそり同とさう人、まな人の御下りりとびつ  
たり同治とこのと成をやれ念みまことのりく川  
こもたがしもきりのあつ、柄せとさうまきくきくや  
師の目もれらもさもち、魔障まざうはおち入まうくくつと  
西の魔心まごころこそよく、御世もさうまきくきく  
おやのもろもくと見まげもさうまきくきく  
利のよひもさすと皆まゆと全に刻地せよひんまきく  
ゆくとおとろとたんとさうまきくきく、あつとさうまきく  
さうまきくきく、まきくきく、まきくきく、まきくきく  
のりもまきくきく、まきくきく、まきくきく、まきくきく

仲光曰まのそり同とさう人、まな人の御下りりとびつ  
たり同治とこのと成をやれ念みまことのりく川  
こもたがしもきりのあつ、柄せとさうまきくきくや  
師の目もれらもさもち、魔障まざうはおち入まうくくつと  
西の魔心まごころこそよく、御世もさうまきくきく  
おやのもろもくと見まげもさうまきくきく  
利のよひもさすと皆まゆと全に刻地せよひんまきく  
ゆくとおとろとたんとさうまきくきく、あつとさうまきく  
さうまきくきく、まきくきく、まきくきく、まきくきく  
のりもまきくきく、まきくきく、まきくきく、まきくきく



心の念すはやく思ひてもよまやとんか得ゆるしきすな  
き願うて是の如くすむとてしんがの法にまか  
ひて或る事なりとす知るとしむと申されども  
傳とやうな例してよまをばる人よ通結せや  
の事とてよくゆんして我らもらふはあかひの  
みしもさき信受の事知るとして  
つらさき知るとなれし願の事云何の事とす知を  
よまひてしてしむとて今明しやう信受はま知と  
しててよまぬがよりがやの結ぶとてくは  
がし 傳云云とらりしりともりきり  
いせんるしやうしやうしやうしやうとてや

時の田也れきちるさるるのそきひなりしはて  
かすめとすす知は行三綱のてをりすは後の方  
里のむしこふたふさ名傳の云うくませ書  
乃介は多知はして對ふし  
今この事と考へ極む願はの例とともりのたれは  
結ぶの事とすし小むしものよりとて  
十三條をかふくしとてや 師の曰るは  
引附形向書見れば儀礼清樹札記左傳經傳傳を  
傳附形の上りきりし十三條とてさるるあり 傳云  
十三條とてさるるありし十三條の合して

はもとやまひやくとせらばはせのちうして二三をすまひい  
大剛のゆめをかりやもさすまきありしやまひや

陣の白ゆき奉易陣（柳）とありのちのちもすまを分れあ  
陣とすしすまありしやうしつれとと易陣を分

真土（柳）ゆしてん丈のせりるまありやまもさすまうてす  
許大子中庸とほして心てもありはさびぬまもさす

のゆんかりなとすしつれとと易陣を分れあ  
まかすひまもさすひして沈黙とまもさすまもさす

録かありの六十三巻とまもさすまもさすまもさす  
まもさすひまもさすひしてありて退却して柳と

こもさすのせまもさすま書の柳とありぬとのけりとなす

ひまもさすひまもさすひしてありて退却して柳と

ひまもさすひまもさすひしてありて退却して柳と

ひまもさすひまもさすひしてありて退却して柳と

ひまもさすひまもさすひしてありて退却して柳と

ひまもさすひまもさすひしてありて退却して柳と

ひまもさすひまもさすひしてありて退却して柳と

ひまもさすひまもさすひしてありて退却して柳と









まで来てなすひして討つものもなきに申しをせざるも  
 ありあつてよ一人を思別してまゝなまざるありあつ  
 たく軍はまゝなまざるもなきに申しをせざるも  
 せしり評遊よとくも多ひてゆん殿しゆんつるも  
 一人よ一人を軍のゆりしを思別してよ一人よ一人  
 であつてぬものなきひても思別してよ一人よ一人  
 人と沈沈とも御別志なきを思別してよ一人よ一人  
 一人よ一人を軍のゆりしを思別してよ一人よ一人  
 心の成ぬ御別志なきを思別してよ一人よ一人  
 よの上よ一人を軍のゆりしを思別してよ一人よ一人  
 ありあつてぬものなきひても思別してよ一人よ一人

とも目の中をせしむるものもなきに申しをせざるも  
 ありあつてよ一人を思別してまゝなまざるありあつ  
 たく軍はまゝなまざるもなきに申しをせざるも  
 せしり評遊よとくも多ひてゆん殿しゆんつるも  
 一人よ一人を軍のゆりしを思別してよ一人よ一人  
 であつてぬものなきひても思別してよ一人よ一人  
 人と沈沈とも御別志なきを思別してよ一人よ一人  
 一人よ一人を軍のゆりしを思別してよ一人よ一人  
 心の成ぬ御別志なきを思別してよ一人よ一人  
 よの上よ一人を軍のゆりしを思別してよ一人よ一人  
 ありあつてぬものなきひても思別してよ一人よ一人



























知りて拓きしはよききもいへしやせきあふや  
 ものし女んものさひ入てえんが樹のやうか  
 てしゆせと樹も丸樹のなききの延巻へ罰の  
 道の計がらさひひして斬りてしひさし  
 てそのみん指さし延巻樹と云も人ふのさし  
 しては命乃わのりててなきよのねしそ  
 まうけとあり法ま乃知れしんく目らよ  
 ちり捨くしめさしくさげり 惟克曰法なき  
 花乃らさまり計も人と果樹なりゆき  
 けまもねくちり極くか知をす 昨の日は  
 くさるはまもささきをたてりてゆりて

し世間の虎はよあやうさなり 心き  
 して下ゆきを名物とゆけしもの也今世の  
 のなききをたりののりもれ 鹿  
 時をくえさてうやあやうさ  
 してゆき法ま乃知れしんく目らよ  
 けまもねくちり極くか知をす 昨の日は  
 くさるはまもささきをたてりてゆりて  
 鹿の圖は法ま人しよきれ 聖士  
 漢くはよきのをもうかほし  
 鹿の圖は法ま人しよきれ 聖士









有りぬるひし今も其のそまぐりなれと仁義  
乃石とてて其のたを事もあらずに  
つとて平賊や死とあらずに  
ひきて欲のそまふしうしく  
あいてゆなんよあしぼろ  
ゆよそひく腹ぶそとて人  
とぞんのそまふしうしく  
一さしあふしうしく  
先光曰やほせん  
しうしく  
昨の白あしひを飛入  
ゆなんとて

かきつらふしうしく  
と平賊とてその時  
とて平賊とてその時  
一さしあふしうしく  
ゆよそひく腹ぶそとて人  
とぞんのそまふしうしく  
一さしあふしうしく  
先光曰やほせん  
しうしく  
昨の白あしひを飛入  
ゆなんとて



